

# 「そんなつもりじゃないのに……」 子どもの行動の健気さに気づいてあげる



「きちんとしなさい」「早くしなさい」と親に指示されることで、子どもはみずから行動に「これでいいのかな?」と自分で「やろう」と思っていることが、ほんとうに正しいのかとまどうってしまいます。そのため、このような子どもは人からどう思われているかが不安で、つねにおびえて、おどおどしています。自分自身で選択していくことに臆病になるのです。

しかも、「早くしなさい」と親に言われたから急いだらかえつて難になってしまい

怒られてしまう——そんな子どももいます。このように間が悪いと、子どもは「どうせ、なにをしたって怒られるんだ……」と混乱して、深く傷ついてしまいます。

注意された内容よりも、怒られたことが心に強く残り、「自分はダメなんだ」と思ってしまうのです。

また、子どもの行動の理由がわからずに、「早くできないこと」や「きちんとできないこと」を、親が頭こなしに子どもに怒ってしまい、その結果、子どもが親を思つてやつたことを、親が否定してしまうということもあります。ほんとうは伝えたことがあっても、その言葉を飲み込んでしまうのです。たとえば、食後に、お母さんが薬を飲むための水を子どもがコップにくんんでいたら、「水ばかり飲んでダメでしょ」と親が勘違いして子どもを叱つてしまつた、というような例です。思いをなかなか言葉にできない子は、不安だからずつと言葉にならないのです。

たとえ子どもでも、親が困つていれば助けたいという思いを言葉にしなくとも抱くものです。親との関係をひたすらに信じているからです。そんな子どもの健気さに気づいたら、「ほんとうは、お母さんのためにしてくれていたんだね。ありがとう。ごめんね」と感謝の気持ちを伝えましょう。